

2024年 第34週（8月19日～8月25日）の感染症発生動向調査情報

<今週の内容>

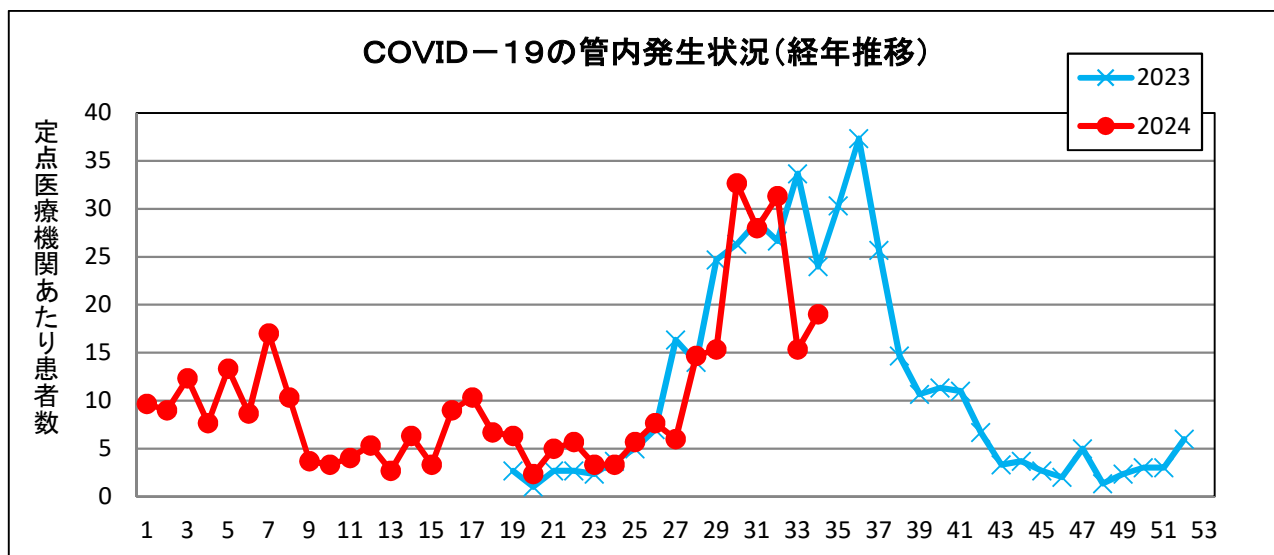
- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）
- 3 県内の感染症発生状況（腸管出血性大腸菌感染症）

1 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週19.00人（先週15.33人）で先週から増加し、兵庫県内の定点あたり報告数も今週7.04人（先週6.47人）となり、先週から増加しました。地域別では、当所管内が19.00人と最も多く、赤穂保健所管内15.67人、福崎保健所管内14.00人となっており、年齢別では、60歳代、70歳代及び80歳以上が12%と最も多く、次いで50歳代が11%となっています。

また、県内の社会福祉施設等においては、当所管内分3件を含め、今週11件（先週13件）の集団発生が報告されています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注) 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)に関する情報](#)
[兵庫県感染症情報センター](#)

◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

◆国立感染症研究所ホームページ

[新型コロナウイルス\(COVID-19\)関連情報ページ](#)

2 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）

- (1) 管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）
第34週は、報告はありませんでした。

(2) 定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

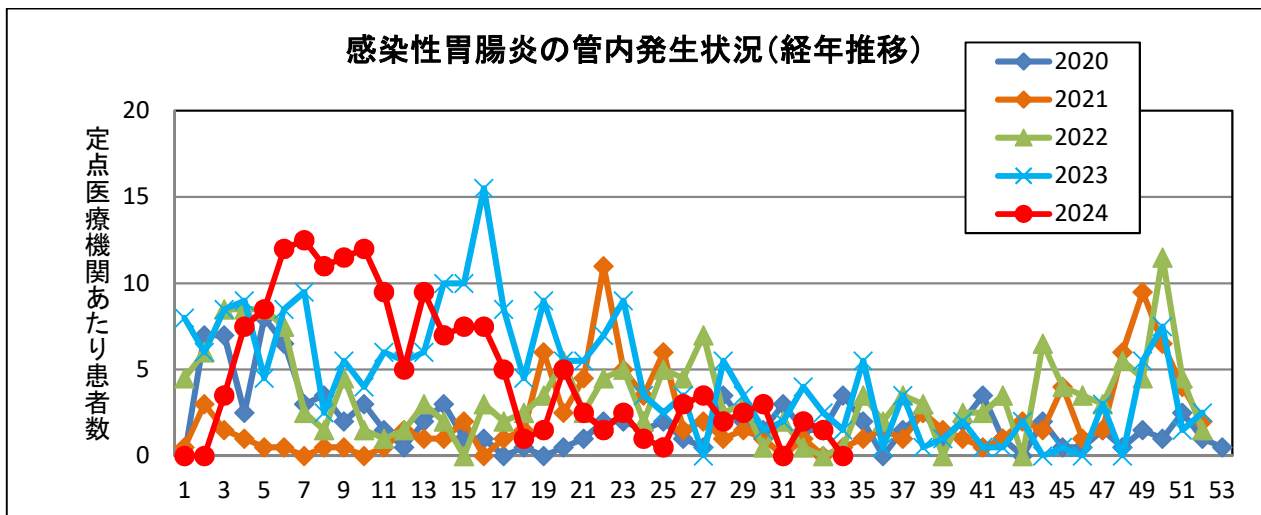
（2024年34週）※定当：定点あたり患者数

インフルエンザ		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発疹		COVID-19	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.5	1	0.5	-	-	-	-	57	19

ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎		感染性胃腸炎4(ロタウイルス)	
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が0人で、先週（1.50人）から減少し、兵庫県では3.22人で、先週（1.60人）から増加しました。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

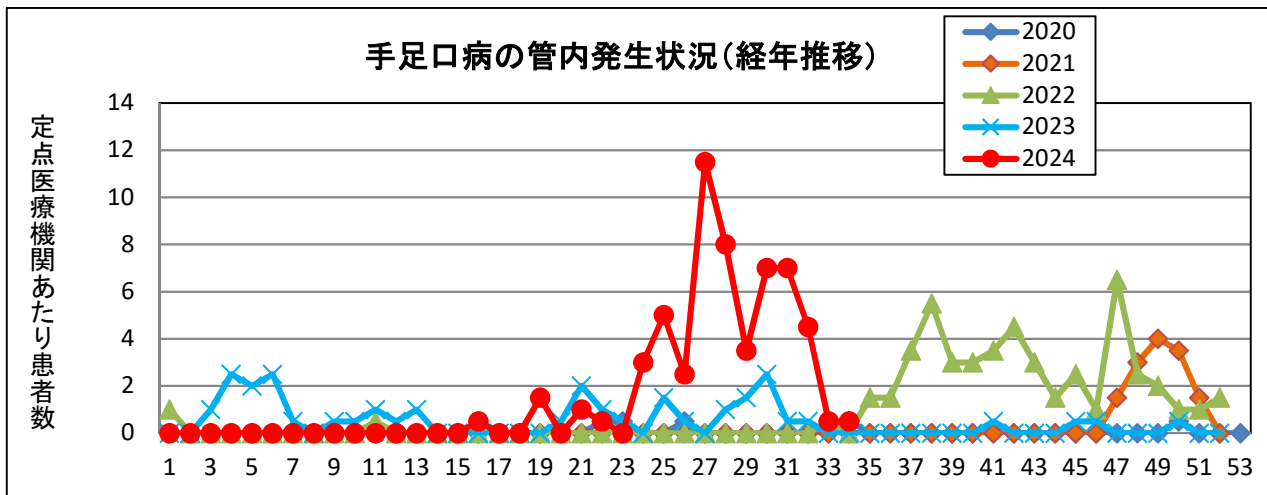
◆兵庫県ホームページ

[感染性胃腸炎\(ノロウイルス等\)について](#)

◆国立感染症研究所ホームページ

[感染性胃腸炎とは](#)

また、管内の手足口病の定点あたり患者数は0.50人で、先週（0.50人）から横ばいで、兵庫県では3.65人で、先週（2.83人）から増加しました。手足口病は、手のひら、足の裏、口の中、おしりなどに米粒大の小さなもりあがった発疹が見られます（1週間程度で治ります）。ときには手や足の甲にも出ることがあります。よだれも増え、37～38℃の発熱が1～3日程度続くことがあります。手足口病のウイルスは、おもに便や鼻汁などの分泌物のなかにおり、手を介して口に入ることによって感染するので、用便の後などはきちんと手洗いすることが大切です。



<感染症に関する情報>

◆[兵庫県ホームページ](#)

[夏の感染症にご注意を!](#)

◆[厚生労働省ホームページ](#)

[手足口病に関する Q&A](#)

◆[国立感染症研究所ホームページ](#)

[手足口病とは](#)

3 県内の感染症発生状況 (腸管出血性大腸菌感染症)

第34週は、県内で7人の腸管出血性大腸菌感染症の報告があり、今年の累積患者数が52人となり、管内では、第33週に1人の報告がありました。腸管出血性大腸菌は牛などの家畜の腸管にすることがあり、その糞便が様々な経路で食品や水を汚染して感染すると言われており、感染力が強く、非常に少ない菌数で感染します。主に水様性下痢と腹痛で発症し、血便、嘔吐、発熱を伴う場合もあります。特に、乳幼児や小児、高齢者ほか抵抗力が弱い人は、激しい下痢に引き続き、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳炎などを起こすこともあり、注意が必要です。トイレの後や、調理・食事の前には石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、ハンバーグなどは食べる前に割って内部の色を見るなどして、十分に火が通っているかどうかを確認しましょう(中心温度が75℃以上、1分以上)。また、生肉や生魚を切った後の包丁、まな板はよく洗い、熱湯をかけて消毒し、焼肉、しゃぶしゃぶ、すき焼きなどをするときには、「生肉用のおはし」と「食べる時のおはし」を使い分けましょう。万が一、腸管出血性大腸菌感染症を疑うような症状を発症した場合には、速やかに医療機関を受診してください。

<感染症に関する情報>

◆[兵庫県ホームページ](#)

[腸管出血性大腸菌\(O157等\)による感染症及び食中毒にご注意ください!!](#)

◆[厚生労働省ホームページ](#)

[腸管出血性大腸菌 Q&A](#)

◆[国立感染症研究所ホームページ](#)

[腸管出血性大腸菌とは](#)